

Title	起業家を支える日本のベンチャーキャピタル - 銀行系ベンチャーキャピタルの考察 -
Sub Title	
Author	藤原賢司(Fujihara, Kenji) 山根節
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1712号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1712

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	山根 研究会	学籍番号	80028711	氏名	藤原 賢司
(論文題名)					
<h3 style="margin: 0;">起業家を支える日本のベンチャーキャピタル</h3> <p style="margin: 0;">—銀行系ベンチャーキャピタルの考察—</p>					
(内容の要旨)					
<p>バブル崩壊以降、日本は長引く景気低迷に苦しんでいる。倒産する企業は年を追うごとに増え、既存の企業は建設関係、金融関係の企業を中心に業績悪化に苦しみ、将来の展望が見えないという状況が続いている。一方、景気が悪化し可処分所得に制限が出てきているという風を受けて、ユニクロ、ダイソーなどの起業家による新興企業が大活躍するようになってきた。第二次世界大戦後、敗戦によりゼロからスタートした日本の経済は本田やソニー、ダイエーやイトーヨーカドーなどの起業家達の活躍により底上げされ拡大を続けてきた。このようなベンチャー企業を支える環境が今後の日本の経済を大きく左右すると考える。そして、この起業家を支える環境において特にベンチャーキャピタルに注目し、日本におけるベンチャーキャピタルの実態を詳らかにすると同時に提言を行う。</p> <p>まず、イギリスのマーチャントバンクがベンチャーキャピタルの発祥とされるが、欧米におけるベンチャーキャピタルの歴史および近來の動向である「ハード」支援から「ソフト」支援への変化、そしてベンチャーキャピタルとして必要な能力や機能が如何なるものであるかというベンチャーキャピタルの基礎的情報を詳らかにする。加えて、諸外国（アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、カナダ）のベンチャーキャピタルの現状と背景を知ることにより、日本のベンチャーキャピタルの分析を行う。</p> <p>日本のベンチャーキャピタルを調査するにあたっては、ベンチャーエンタープライズ投資動向調査などの資料を参考にするのに加え、独自にアンケートを展開し、かつアンケート内容の裏付けおよびその内容の背景に迫るために業界当事者に INTERVIEW を行った。アンケートを展開し、また INTERVIEW を行うに際しては、日本のベンチャーキャピタルにおいて投資件数および投資額の最も多い銀行系ベンチャーキャピタルに焦点を絞った。</p> <p>アンケート内容は、EARLY STAGE, EXPANSION STAGE, LATER STAGE という STAGE 毎の投資状況、各 STAGE に関する捉え方、技術評価、「ソフト」面に関する支援などの状況を調査した。また、ベンチャーキャピタルは投資規模に関し各社で大きな差があるため、各項目において投資額の大きいベンチャーキャピタルの結果と全体に関する結果との比較を行い、ベンチャーキャピタル全体と投資額の大きいベンチャーキャピタルの動向把握に努めた。結果として特に顕著であったこととしては、「出口」から2-3年前までのみを LATER STAGE として捉えるという見方が強く、特に投資額の大きいベンチャーキャピタルはその傾向が強く短期的な見方をしていることが判明した。逆に、EARLY STAGE に関しては、投資額の大きいベンチャーキャピタルの投資額が少なく、投資額の大きいベンチャーキャピタルの LATER STAGE への投資比重の高さが目立った。また、「ソフト」面に関する支援に重点はおかれているものの、技術に関してはあまり注力する意向がないという日本のベンチャーキャピタルの現状も注目されるべき結果であった。</p> <p>アンケート結果を踏まえて、日本のベンチャーキャピタルの能力や銀行系ベンチャーキャピタルの親会社との密接性と収益性などに関する結論に加え、あまり取り上げられることのなかった日本のベンチャーキャピタルの二極化、ポートフォリオについての考え方の問題点についての考察を行う。</p> <p>最後に、上記を踏まえて、日本のベンチャーキャピタル全般に関し、役割分担や政府の支援などに関する提言を行い、更に、銀行系ベンチャーキャピタルに対する改善策の提言を行う。</p>					